

同和・人権教育、多文化共生教育



12月11日、兵教組は各区同和・人権教育推進専門委員と研究所人権教育研究会・多文化共生教育研究会の両方による、対県要請行動をおこなった。冒頭、各地域組合から寄せられたネット上の差別問題を含めた学校での人権教育の実態、趣旨説明をおこなった後、県教委各課から回答が示された。

兵教組は、これまで被差別の子どもたちへの学力保障や進路保障、新たな教育内容の創造、解放学級の弾力的運用や児童生徒支援加配教員の増員等の条件整備のとりくみをすすめてきた。あわせて、外国につながる子どもへの学力保障や進路保障、新たな教育内容の創造、子ども多文化共生サポーター配置拡充等の条件整備にとりくんでいく。



育の推進を今後ともめていく。

幼児教育部



12月9日、兵教組幼児教育部による対県要請行動をおこなった。冒頭、幼児教育の充実や教職員の勤務労働条件の改善、安易な幼稚園の統廃合の見直し等を含めた趣旨説明をおこなった。その後、各地域組合より配慮を要する子どもへの支援や研修のあり方等、教育現場の実態にもとづいた要望を訴え、県教委から回答を得た。

最後に、福山書記次長より「県教委『ひょうご教育創造プラン』、『指導の手引き』から幼児教育の大切さへのメッセージを感じている。オンデマンド研修等により全県的な周知と活用



地域組合より発言の様子

障害児教育部

12月11日、兵教組障害児教育部による対県要請行動をおこなった。冒頭、合理的配慮の提供、通級指導の教育環境・条件整備等を含めた趣旨説明をおこなった後、県教委各課から回答が示された。その後、各地域組合より

①「ともに生きる社会」づくりをめざす教育の推進
②インクルーシブ教育を推進するための体制整備と具体的にとりくみ、③就学保障のとりくみ、④教育条件整備、⑤通級による指導、⑥進路保障、⑦労働条件改善について要望を訴え、再度県教委より回答が示された。

最後に、谷中央執行副委員長より「すべての子どもがともに生き、ともに学ぶ教育をさらに推進していくため、支援員の確実な配置、支援員の維持・拡充を多人数加配の維持・拡充をもとめる。また、支援学級の定数改善を強く国に要望してほしい。特別支援学校に通う子どもと地域の学校に通う子どもとの活発な交流のため、支援学校の教職員の引率・出張体制の見直しをもとめ、医療的ケアを必要とする



兵教組各専門部で要請行動を実施



発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
代表者 森 戸 卓 也
編纂人 福 山 香
電話 050(3538)2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2025/3・1
No.2112
第32回日教組近畿ブロック母と女性教職員
の会兼第47回母と女性教職員の会
兵庫県集會
兵庫教育文化研究所第93回運営委員
会・第108回研究所員會議

「地きゅうに入ったよ」

香住町立佐津小学校 2年 濱田 美海
『こどもの詩と絵 第44集』より

お正月ファミリーパズル

お正月ファミリーパズルにご応募いただき、ありがとうございます。正解者の中から抽選で20人の方に図書カードをお送りいたします。パズルの解答とともに、「みずおか議員、古賀議員の学校現場の声を届ける働きかけが、よい改革につながることを期待している」といった感想が寄せられました。また兵庫県教育研究集会シンポジウムの記事に対して、「阪神・淡路大震災から30年の節目の年で、改めて兵庫の教職員として、震災での学びを子どもたちに伝えていきたい」などの感想をいただいた。

- ### 当選者の皆さん
- 宗野 慧吾(西宮)、 投石 陽香(伊丹)、 首藤 美穂(宝塚)、 野田 夏実(三田)、 岸 本 匠 史(明石)、 菅野 眞子(三木)、 市田 俊彦(加小)、 井上 皓文(姫路)、 内藤 祐輔(神崎)、 中村 駿介(赤相)、 福本 みどり(佐用)、 高品 えり子(宍粟)、 安岡 翠(豊岡)、 山本 絵理子(朝来)、 藤本 稔子(美方)、 村岡 初美(水上)、 木村 如宏(多紀)、 坂井 奈保美(洲本)、 中川 裕之(津名)、 平山 由愛(南あわじ) (敬称略)
- ★皆さんの感想やご意見を、お待ちしております。

教職員共済

火災共済
住宅災害等給付金付火災共済
自然災害共済

この機会に「教職員共済」へご相談ください！

- 01 保険料(掛金)が値上がりした
- 02 住宅ローンが完済となり満期がくる
- 03 加入したときのままほったらかしにしている

「補償は見直しですが、大切です」

ご自宅の補償を見直しませんか？

こんな方は特に見直しをオススメします！
今、加入している保険(共済)について

お問い合わせもお気軽にどうぞ！
詳しくはこちら！

資料請求・お問い合わせ

厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合 兵庫県事業所

〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通4-10-8 ラッセホール4F
TEL:078-221-9730【平日9:00~17:30】

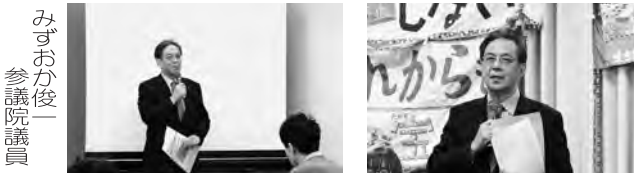
https://www.kyousyokuin

※ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。

第32回 日教組近畿ブロック 母と女性教職員の会

兼 第47回 母と女性教職員の会 兵庫県集會

2月8日、「第32回日教組近畿ブロック母と女性教職員の会」兼「第47回母と女性教職員の会」兵庫県集會が「子どもたちに平和な未来を」をテーマにラッセホールで開催され、近畿各地域から保護者・退職教職員を含めた約180人が参加した。



全体会では、正井禮子さん(ウイメンズネット・こころ)による「女たちの家から六甲ウイメンズハウス開設までの30年」と題した記念講演がおこなわれた。

分科会では、「子どもと生きる社会」、「子どもと人権」、「女性の生き方」をテーマに、3つのグループにわかれ活発な討議がおこなわれた。また、みずおか俊一参議院議員より各分科会にて激励の言葉をいただいた。

母と女性教職員の会は、誰もがその命を大切にされる平和な社会、すべての人に居場所がある社会、子どもたちが安心して育つための平和な未来をつくるため、引き続き活動していく。

母と女性教職員の会は、誰もがその命を大切にされる平和な社会、すべての人に居場所がある社会、子どもたちが安心して育つための平和な未来をつくるため、引き続き活動していく。

第3分科会「女性の生き方」障害のある子どもを育てられている保護者の方の生の声、またDV当事者の方の生の声を聞き、貴重な学びとなった。報告者の方が自身の体験を赤裸々に話され、前向きに活動されている姿に感銘を受けた。

居場所づくりの大切さや、会話の大切さを学んだ。また明日から仕事を頑張っていくという力になった。

女性の生き方や討議の柱について、交流し組合の意義も確認し合える時間だった。

好きなことを見つけることが、生きるための大きな力になる。子どもに、様々な体験をさせたいと思った。

第2分科会「子どもと人権」子どもの話に寄り添う時間が必要だと、再認識する問題提起があった。

子どもの居場所をつくるために、どう地域と連携していくのか、教職員に何ができるのか考えさせられた。

地域と学校が繋がること、子どもだけでなく、孤独な大人にとっても安心、安全な環境になると感じた。

他地域、他府県にも子どもと真っ直ぐ向き合っている仲間が、たくさんいることを忘れずに仕事をしたい。

ジェンダーやセクシャリティについて、話し合い共感し合うことができるこの場に、安心感と元気をもらった。

第1分科会「ともに生きる社会」沖繩のこと、ジェンダーのことを考えるきっかけとなった。おかしいと思ふことはおかしいと思ふこと、声をあげられるようになった。

性の話について、何が正解で間違いかは誰にも決められないが、様々な考え方があつたことを子どもに伝えたい。

「ひとりではできないのか」という問いかけに、これまでの平和へのむき合い方が揺らいだ。ひとりでもやってやる!という思いをもつからこそ、その熱に反応して仲間が集うのだと思った。

分科会

参加者感想

第1分科会「ともに生きる社会」沖繩のこと、ジェンダーのことを考えるきっかけとなった。おかしいと思ふことはおかしいと思ふこと、声をあげられるようになった。

性の話について、何が正解で間違いかは誰にも決められないが、様々な考え方があつたことを子どもに伝えたい。

「ひとりではできないのか」という問いかけに、これまでの平和へのむき合い方が揺らいだ。ひとりでもやってやる!という思いをもつからこそ、その熱に反応して仲間が集うのだと思った。

参加者感想

第2分科会「子どもと人権」子どもの話に寄り添う時間が必要だと、再認識する問題提起があった。

子どもの居場所をつくるために、どう地域と連携していくのか、教職員に何ができるのか考えさせられた。

地域と学校が繋がること、子どもだけでなく、孤独な大人にとっても安心、安全な環境になると感じた。

他地域、他府県にも子どもと真っ直ぐ向き合っている仲間が、たくさんいることを忘れずに仕事をしたい。

ジェンダーやセクシャリティについて、話し合い共感し合うことができるこの場に、安心感と元気をもらった。

参加者感想

第3分科会「女性の生き方」障害のある子どもを育てられている保護者の方の生の声、またDV当事者の方の生の声を聞き、貴重な学びとなった。報告者の方が自身の体験を赤裸々に話され、前向きに活動されている姿に感銘を受けた。

居場所づくりの大切さや、会話の大切さを学んだ。また明日から仕事を頑張っていくという力になった。

女性の生き方や討議の柱について、交流し組合の意義も確認し合える時間だった。

好きなことを見つけることが、生きるための大きな力になる。子どもに、様々な体験をさせたいと思った。

正井さんは、「30年前の阪神・淡路大震災の際、女性支援ネットワークを立ち上げた。電話相談を始める」と、女性たちから家庭内等での暴力(以下、DV)などで悩む悲痛な声が相次いで寄せられた。DVは児童虐待でもあり、子どもは忘れられた被害者である。またDVは個人的問題ではなく、社会の問題である。



記念講演
ウイメンズネット・こころ
正井 禮子さん

災害時は、女性や子どもの安全や健康、尊厳、権利などが脅かされやすい。避難所や仮設住宅の運営には、女性の参画が必要である。また、防災や復興対策においても女性の視点、ニーズが重要である。防災は日常から始まる。日頃より、若年女性のエンパワメントをはかり、ジェンダー平等教育やジェンダーにもとづいた性教育のとりくみは不可欠である」と語った。

参加者感想

正井さんの活動や功績を知り、大変勉強になった。女性が声を上げられるように、自分の力で生きていくように、安心した人間関係を築くことができてよかった。

参加者感想

第2分科会「子どもと人権」子どもの話に寄り添う時間が必要だと、再認識する問題提起があった。

子どもの居場所をつくるために、どう地域と連携していくのか、教職員に何ができるのか考えさせられた。

地域と学校が繋がること、子どもだけでなく、孤独な大人にとっても安心、安全な環境になると感じた。

他地域、他府県にも子どもと真っ直ぐ向き合っている仲間が、たくさんいることを忘れずに仕事をしたい。

ジェンダーやセクシャリティについて、話し合い共感し合うことができるこの場に、安心感と元気をもらった。

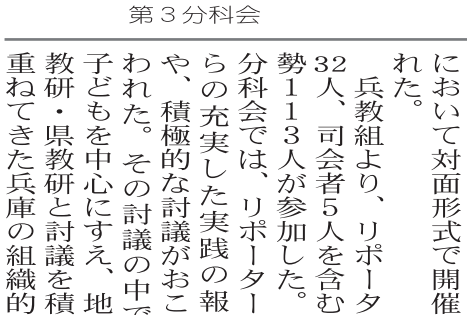
参加者感想

第3分科会「女性の生き方」障害のある子どもを育てられている保護者の方の生の声、またDV当事者の方の生の声を聞き、貴重な学びとなった。報告者の方が自身の体験を赤裸々に話され、前向きに活動されている姿に感銘を受けた。

居場所づくりの大切さや、会話の大切さを学んだ。また明日から仕事を頑張っていくという力になった。

女性の生き方や討議の柱について、交流し組合の意義も確認し合える時間だった。

好きなことを見つけることが、生きるための大きな力になる。子どもに、様々な体験をさせたいと思った。



第3分科会

第2分科会

第1分科会

開会あいさつ(要旨)

第74次全国教研について、今年度より全体集會はオンライン形式で1月16日から26日にかけて神奈川・東京において対面形式で開催された。

兵教組より、リポーター32人、司会者5人を含む総勢113人が参加した。各分科会では、リポーターからの充実した実践の報告や、積極的な討議がおこなわれた。その討議の中で、子どもを中心に、地域教研・県教研と討議を積み重ねてきた兵庫の組織的な

子ども、仲間の思い寄り添ったとりくみを

学校でこの状況を取りこみ越えていくための処遇改善とともに、この間、積み上げられてきた業務のスクラップ、教職員定数の改善と確実な配置をはじめ、教育を取り巻く環境の再構築は必要不可欠である。

兵教組は、日教組・みずおか俊一参議院議員をはじめとする日政連議員との連携をはかり、実感できる働き方改革・持続可能な学校の実現にむけて、学校園現場の状況・願いをふまえた教育施策への転換と教育諸条件整備をもとめてとりくみいく。結果、そのことよって子どもたちが安心して学べる環境が保障され、その上に立って私たちが、子どものゆたかな学びと育ちにつなげていかなければならない。

兵教組・研究所は、子ども、仲間の思いに寄り添い、より一層現場に依拠した運動をすすめていくために、7月の参議院議員選挙では、比例代表候補予定者・兵教組出身の「みずおか俊一」さんの必勝を期してとりくんでいく。

最後に、今年度末をもって退任される、協力研究所員の多文化共生・国際連帯の教育・五百住先生、研究所員のインクルーシブ教育部会・石黒先生、また、人事異動等で退任される先生方に、これまでの兵庫における教育研究活動の深化・発展にむけたご尽力に対し、心から感謝申し上げます。今後とも研究所へのお力添えをお願い申し上げます。



研究所員会議の様子



森戸所長

2月10日、ラッセホールで、兵庫教育文化研究所(以下、研究所)の第93回運営委員会・第108回研究所員集會をオンラインを併用しておこなった。

森戸研究所長のあいさつ(左記参照)の後、今年度末をもって任期満了により退任される、研究所員の石黒健さん(インクルーシブ教育部会)、協力研究所員の五百住満さん(国際連帯・多文化共生教育部会)の紹介があり、代表で五百住さんへ感謝状の贈呈と退任のあいさつ(下記参照)がおこなわれた。

森戸所長は、長年にわたる兵庫における教育研究活動の深化・発展にご指導とご尽力をいただいたこと、心からの感謝を述べた。

続いて、24年度の研究所における活動の経過、運営および活動の総括や当面のとりくみなどを提起し、協議された。

感謝状贈呈 協力研究所員 五百住満さん

退任あいさつ(要旨)

教員の時代は、兵教組の組合員として明石支部で分会長等を務めた。当時はストライキが頻繁にあり、また校長交渉をおこなうなど激しい闘争の中にいた。その後、教育委員会に所属となり自然学校専門指導員・人権教育課長となった。関西学院大学の教員を経て現在は兵庫県立大学の学長をしている。

主に教育委員会では制度づくりに携わり、兵教組とも協議しながら様々なシステムをつくってきた。制度

素晴らしい兵庫の教育のため、組合の力をさらに強固に

や仕組みづくりはとても重要であり、行政だけではできない。今の兵庫の教育制度は、行政と組合が一体となつてつくっている。兵庫の制度が全国共通だと思わないでほしい。兵庫の教育は一生懸命積み上げてきた組合運動のおかげで、今の制度ができています。

私は行政に所属していたため、教育行政というのは、強制的にも管理的にもなる怖さを知っている。

どうか組合の力をさらに強固にして、組合の重要性を多くの人に広げてほしい。組合員を増やしていかなければ組合の力が弱くなっていく。

これからも皆さんで力を合わせて、素晴らしい兵庫の教育をつくるためにとりくんでほしい。



研究所員会議の様子